櫻園通信　8.　平成 26 年 2 月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先：老年学情報センター

健康長寿医療センターの敷地に 板橋競馬場があった頃

大沢鷹邇　養育院・渋沢記念コーナー維持ボランティア

健康長寿医療センターの裏（北側）の崖沿いに、一方通行路があります。この通路にほぼ並行して、敷地内にかつて板橋競馬場のトラック（走路）がありました。今は跡形もなく消えた幻の競馬場です。

図 1　板橋競馬場を描いた明治 45 年の地図

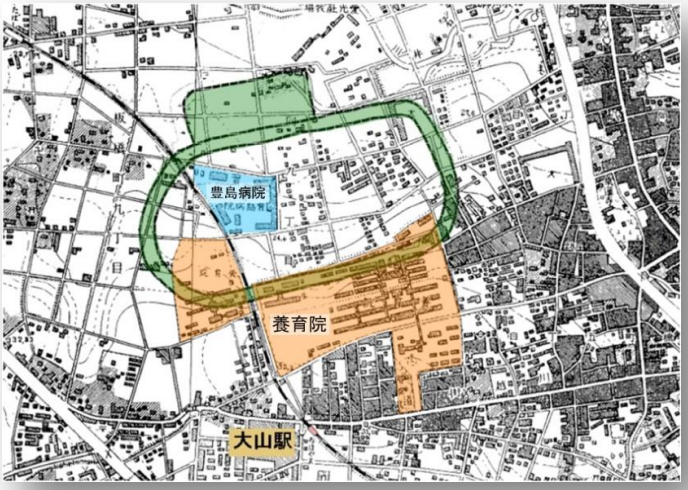

図 2　昭和 12 年測図の地形図に、明治 42 年測図の板橋競馬場トラックのみを加筆

走路は崖上に直線部があり、区立大山公園の北端部から半周して傾斜を下り、当時蛇行していた石神井川を除けて低地に直線部を設けていました。

1 周 1600m の楕円形の走路は、東上線のガード付近から再び半周して傾斜面を先ほどの崖上に戻りました。

明治 45（1912）年発行、東京逓信管理局作成の「東京市及び近傍町村番地入地図」に板橋競馬場が鮮明に描かれています（図 1）。明治時代の終わりのころの板橋町の姿を伝えています。

大正 3(1914)年開通の東上鉄道（現　東武東上線）や同年開院の養育院板橋分院（現　都立板橋看護専門学校）は、まだありません。

同図には、元禄 9（1696）年開設の千川上水と江戸時代以来の小松屋横町道が描かれています。千川上水は昭和 6（1931）年ごろに暗渠になるまで養育院の敷地内を通過する清流でした。

正門側の事務棟と北側の病棟の間に上水の清流が流れ、医師・看護師は事務棟から屋根付きの橋を渡って直接病棟に行くことができました。建物の外には別の橋がありました。

小松屋横町道は板橋区仲宿の酒屋小松屋の脇道が名の由来と言われています。大正 12（1923）年、養育院本院が大塚から移転してきたとき、院内病棟を東西に横切っていた小松屋横町道を裏の崖際に付け替えました。現在、小松屋横町道は、板橋第一小学校前を通って大山公園に突き当たり、右（北）に迂回し、崖沿いを行き、東上線に出たところで再び昔の小松屋横町道の踏切（第 17 号踏切）に出ます。

第 1 図を改めてみると、競馬場の走路は小松屋横町道に近接し、ほぼ並行に走っています。つまり、走路は現在の一方通行路と、旧小松屋横町道の間を走り抜けていたわけです。当時トラックの柵は目隠しは無いと思われるので、小松屋横町道を歩く人のすぐ脇を競走馬が駆け抜けていたことになります。石神井川寄りの低地にあった馬見所でみるよりも余程迫力があったことでしょう。

板橋競馬場については「久保田遺跡」発掘報告書に荒木正彦氏が詳報しています。氏の記事を引用し・参考させて頂き、以下にあらましを記します。

日露戦争（1904-05 年）を通して日本の軍馬の不足、質の貧弱さが指摘され、その対処法として競馬の有効性が説かれました。

そこで明治 39（1906）年東京競馬場が池上を馬場として設立されました。同年 11～12 月に第 1 回のレースが開催され好評を博しました。こうして 1～2 年後には 200 を超える倶楽部設立の申請書が出願されました。板橋競馬場もこんな状況の中での誕生です。明治 41（1908）年春の時点で、東京付近で馬券を発売して開催された競馬は、東京競馬会（池上）、日本競馬会（目黒）、京浜競馬倶楽部（川崎）、日本レース倶楽部（横浜）、そして東京ジョッケー倶楽部（板橋）の 5 か所でした。

東京ジョッケー倶楽部には、明治 40 年 8 月に設立の認可が下りていましたが、馬場工事の遅れで開催できず、翌年に順延となりました（図 3）。板橋競馬場第 1 回は明治 41 年 3 月 28 日から 4 日間開催されました。内 3 日間が雨天となり、馬場が重く交通不便等の悪条件にもかかわらず、入場者は相当多く、出場馬と興味ある番組により観衆を熱狂させ、予期以上の成績であったといいます（「日本競馬史」第 3 巻）。

その後、7 月に 4 日間、12 月に 3 日間開催したのを最後に板橋競馬場はわずか 1 年足らずで役目を終えました。

明治 43（1910）年、政府の方針で東京近辺の 4 競馬会（池上、目黒、板橋、川崎）は整理統合され、同年 5 月に東京競馬倶楽部を設立し、唯一の馬場を目黒（後に府中に移転）に定めました。…以上荒木氏の記事から。

図 1 の地図が発行された明治 45 年、板橋競馬場は統合された後で、その跡地が残されていました。明治 45 年 7 月 30 日、時代は大正に変わりました。

大正元年、養育院板橋分院（現　都立板橋看護専門学校）の敷地の取得が決まりました。分院敷地の北東寄りは、板橋競馬場のトラックがカーブしながら崖上から傾斜面を下りていた部分でした。分院も競馬場の跡地を利用していました。

板橋競馬場の跡地は、分院のほか、東上鉄道（現　東武東上線　大正 3 年開通）、愛光舎牧場（大正 2 年　巣鴨より移転）、豊島病院（大正 7 年　現板橋第一小学校の近くから移転）、養育院本院（大正 12 年　大塚から移転）など、公私の大規模施設の開設・移転先に活用されました。現在は介護・医療・教育施設の一大集積地に発展しています。

図 3　都新聞　明治 40 年 8 月 31 日版
「久保田遺跡」から

図 4　板橋競馬場勝馬投票券 「馬の博物館」所蔵

なお、板橋競馬場については、板橋区立郷土資料館の特別展「板橋と馬」にて勝馬投票券（図 4）の実物が展示されています（平成 26 年 1 月 25 日～3 月 23 日）。

同展図録には同館学芸員齊藤千秋氏が板橋競馬場の誕生と終わりを詳しく語られています。